

タイミングからみた夫婦の生活行動の相互関係

平田 道憲
(1999年9月30日受理)

Interrelation between Husband and Wife Reflected in Timing of Activities

Michinori Hirata

Generally we use the duration of activities in time-budget studies. This paper examines the interrelation between husband and wife reflected in timing of activities, not in the duration. Do husband and wife conduct the same activity at the same time? What activities are conducted by a husband when his wife is engaging in the specific activity? I conducted the time-budget survey in 1995 at Higashi Hiroshima City. 160 couples were selected and time use data on Friday and Saturday was reported. The information about husband, wife and their household was also collected. 24 hours are divided into 96 points of timing every fifteen minutes. The degree of the coincidence of the activities of husband and wife at the same timing point is affected by the employment status of the wife and the day off pattern of the couples. In Japan, husbands sleep longer than wives. We cannot find such a result in other countries. Japanese wives get up earlier than husbands and prepare breakfast during husbands still sleep. When husbands conduct housework, wives are likely to conduct housework. On Saturday, husband and wife conduct free time activities more at the same time when the husband does not work. Gender difference between husband and wife in terms of the duration of activities were cleared up from the new points of view by the analysis of timing.

1. はじめに

これまでの生活時間研究の成果によれば、夫婦の生活時間配分に相違があることはよく知られた事実となっている。筆者は日本における夫と妻の生活時間配分の特徴を整理したことがある [平田、1994]。その一つは睡眠時間における特徴であった。日本においては、専業主婦の睡眠時間は有職の夫より短い。日本ではそれほど奇異に感じられないこの結果は、実は、諸外国との比較においては例外的である。1972年に国際比較の目的で愛媛県松山市で実施された生活時間調査の結果において、日本以外の諸外国では、専業主婦の睡眠時間は有職の夫より長かった。有職の夫の睡眠時間が有職の妻より長い国は日本以外にもみられたが、無職である専業主婦よりも長い国はなかった [経済企画庁国民生活局国民生活調査課、1975]。この傾向は、もう少し新しいデータを用いた1986年の日本とカナダの比較においても見いだされている [平田、1994]。未婚者と既婚者の区別はないものの、7カ国の生活時間

の比較研究において、日本においてのみ、成人男性の睡眠時間が成人女性の睡眠時間より長いことも示されている [NHK放送文化研究所世論調査部、1995]。

なぜ日本では有職の夫の睡眠時間が専業主婦の睡眠時間より長いのか。この理由について分析した結果を1998年度日本家政学会中国・四国支部研究発表会で報告した [平田、1998]。この報告では、1995年に東広島市で実施した同一世帯の夫婦を対象とした生活時間調査の調査結果を用いた。この調査においても、有職の夫の睡眠時間が就業の有無にかかわらず妻の睡眠時間より長いことが確認された。生活時間の個票を分析することによって、日本の妻の睡眠時間が夫より短いのは、妻の方が早起きで、夫が起きるまでに朝食の準備をしているケースが多いことを事例的に紹介した。この事実が日本ではそれほど奇異に感じられないことが、夫の睡眠時間が妻より長いことを奇異に感じないことにつながっていると思う。

本論文は、この夫婦の睡眠時間の分析の経験に基づいて発想されたものである。同じ時刻に夫婦はどのよ

うな行動をしているのだろうか。同じ行動をしているのか、あるいは違う行動をしているのか。夫婦の一方の行動が他方の行動から影響を受けるということはないか。これは、時間量に現れる夫婦の生活時間配分の相違を、時刻、すなわちタイミングという別の視点からとらえられるのではないかという問題意識である。そこで、本論文では、同一世帯の夫婦を対象とした生活時間調査の調査結果を用いて、夫婦の生活時間配分の相違を、タイミングからみた夫婦の生活行動の相互作用の視点から明らかにすることを目的とした。

これまでの生活時間研究においては、時刻に着目したタイミング分析はそれほど多くない。もっとも一般的なタイミング分析は時刻別の行為者率を用いるものである。NHK生活時間調査の分析ではこの指標が数多く用いられている [NHK放送文化研究所、1996]。しかしながら、それ以外のタイミング指標を用いた分析は少ない。本論文は、同一時刻の夫婦の行動の異同に着目したもので、生活時間研究のタイミング分析に新しい視点を提供するものである。

本論文の以下の構成は次のとおりである。2.において、本論文で用いるデータに関連する記述を行う。その後、次の三点からの分析を述べる。第一に3.において、タイミングからみた夫婦の行動の一致度を検討する。第二に、4.において、夫婦の睡眠・非睡眠の相互関係をとらえる。第三に5.において、職業労働、家事労働、自由行動の相互関係を分析する。

2. 調査の概要・分析方法・回答者および回答世帯の特徴

本論文で用いるデータを得るために実施した調査の概要および分析方法は次のとおりである。

(1) 調査の概要

1) 調査地域

東広島市旧西条町。東広島市は西条町、高屋町、八本松町、志和町の4つの町を統合してできた市であり、旧西条町は其中で中心的な位置にある。調査実施時期当時の東広島市の世帯数は42,025世帯、人口は108,577人、旧西条町の世帯数は、20,390世帯、人口は45,689人であった(1995年9月末現在)。

2) 調査対象日

1995年12月1日(金)および12月2日(土)。

3) 調査対象・標本抽出

同一世帯に居住する夫婦が夫婦の年齢が18歳以上65

歳未満。二段階確率比例抽出法により160世帯を抽出し、160組の夫婦を調査対象者とした。

4) 調査方法

事前配布、留置、回収法による。あらかじめ決定してある対象日の数日前に調査員が対象世帯を訪問し調査票を配布し内容を説明する。対象日の翌日以降、調査員が個人面接により調査票を回収し、調査票の点検を行う。

5) 回収状況

113組の夫婦から有効回答を得た。有効回収率は70.6%である。

6) 調査内容

金曜・土曜二日間の生活時間。個人・家族の属性、態度。

(2) 生活時間調査およびタイミングの分析方法

本調査の生活時間調査は日記法を採用し、行動分類はアフターコード方式で行った。使用した行動分類表は、国際比較調査の分類に基づいて1991年に松山市において行われた調査の行動分類である(筆者もこの調査の研究メンバーである)。これは小分類99項目、中分類36項目、大分類12項目に分類したものである。

本論文で実施したタイミングの分析方法としては、1日24時間を15分ごとに96の時刻に区分し(0:00-23:45)、各時刻ごとの夫婦の行動の関連を検討した。タイミング分析において用いた行動分類は、大分類12項目のうち自由行動関連の5項目をひとまとめにした8項目の大分類である。

本論文では夫の就業の条件をそろえるために、夫が有職でかつ金曜が就業日だった世帯の87組の夫婦について分析をした。

(3) 回答者および回答世帯の特徴

家族構成は、核家族世帯が81.4%を占め、うち夫婦のみの世帯は16.8%であった。三世代同居世帯は18.6%となっている。平均世帯人数は3.7人であった。対象者のうち子どものいる世帯は92世帯で、子どもの人数は2人が46.7%と最も多い。対象の夫と妻の平均年齢は、夫44.0歳、妻41.1歳である。結婚年数をみると結婚20年以上のカップルが38.9%を占めている。そのことを反映して、末子年齢をみると、末子が15歳以上の割合が37.0%でもっとも多く、次いで末子6-15歳の30.4%である。62.8%の世帯が持ち家に居住しており、賃貸を含め68.1%が一戸建てである。移動手

段として95.6%の世帯で自家用車を所有している。

夫と妻の個人の属性として、まず就業形態をみると夫は95.1%が有職で「主に仕事」をしている。妻は、80.5%が有職であるが、そのうち「主に仕事」をしているのは28.3%、残りは「家事の傍らに仕事」をしているいわゆるパートタイム就労者である。職種別では、夫の場合、事務・技術職（48.0%）、技能・作業職（22.4%）が多く、経営・管理・専門職も7.1%いる。妻でもっとも多いのは夫と同じく事務・技術職（39.3%）であり、以下販売・サービス業従事（31.1%）、技能・作業職（9.8%）と続く。週の平均就業時間は、夫で49時間以上とする者が47.4%であり、妻が16.4%であるのに比べ、長時間労働であることがうかがえる。週休制度をみると、69.5%の夫が週休二日制（隔週も含む）である。妻も55.9%が、週休二日制としている。学歴について夫も妻も約半数は高校卒業であるが、夫は37.0%が大学・大学院卒業であるのに対し、妻は8.7%である。妻の場合、短大・高専・専門学校卒業の者が34.0%と多くなっている。

3. 夫婦の行動の一致度

はじめに、タイミングからみた夫婦の行動の一致度について検討する。行動の一致度とは、上で説明した分析方法の1日の96の時刻について、夫婦の行動が一致する比率を計算したものである。一致度は用いる分類によって値が異なるが、本論文では、次の8項目の大分類を用いた。睡眠、食事、身の回りの用事、仕事、学業、家事労働、移動、自由行動の8項目である。家事労働には子どもの世話や買い物も含まれている。大分類を用いると一致度の数値は高くなる。たとえば、夫がテレビを見ていて妻が手芸をしているとき、本論文で用いた大分類では行動が一致するが、99項目の小分類を用いると行動が一致しない。本論文では、職業労働、家事労働、睡眠、自由行動といった上位のレベルの行動の相互関係をとらえたいと考え、大分類を使用した。

図1は金曜および土曜の夫婦の行動の一致度を示したものであり、分析した対象者全体の結果である。金曜47.4%、土曜49.8%と約半数の時間帯で大分類レベルの行動が一致しており、全体としては曜日による相違はない。

各曜日ごとに属性別に一致度を比較した。分析に用いた夫婦は上述のとおり、夫が有職でかつ金曜が就業日だった世帯の夫婦である。そこで、金曜については妻の就業形態別に、土曜については就業日パターン別に一致度を比較した。就業日パターンについては後ほど説

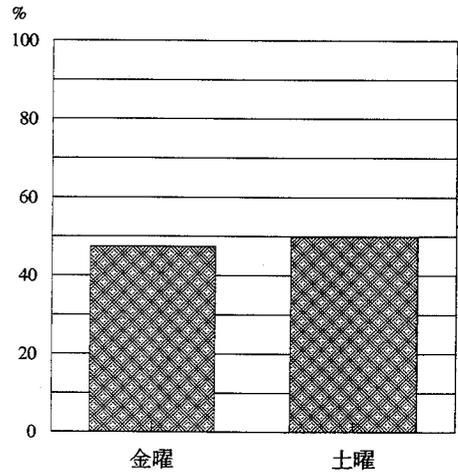


図1 夫婦の行動の一致度（大分類）

明する。

図2は金曜の行動の一致度を妻の就業形態別にみたものである。「主に仕事」いわゆるフルタイムの妻の場合に一致度をもっとも高く62.9%となっている。これに対して専業主婦の一致度は35.1%ともっとも低い。これは、後ほど述べるとおり、フルタイムの妻の場合は夫婦ともに仕事をしている時間帯が多いからである（夫は全員金曜に仕事をしている）。

図3は土曜の行動の一致度を就業日パターン別にみたものである。ここでいう就業日パターンとは土曜の就業についての夫婦の就業の組み合わせである。土曜については、夫は就業日であるか否かに二分できる。妻は有職の場合は、「主に仕事」か「傍らに仕事」かにかかわらず、夫と同様就業日であるか否かに二分できる。これに専業主婦を加えると、図3にあるとおり、夫婦

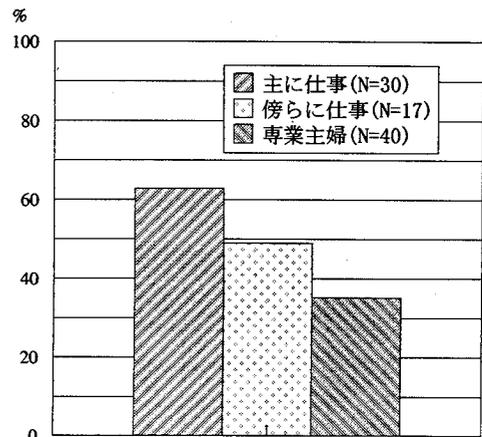


図2 妻の就業形態別にみた夫婦の行動の一致度（金曜）

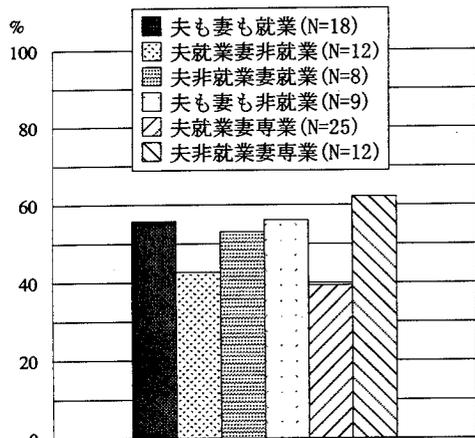


図3 就業日パターン別にみた夫婦の行動の一致度 (土曜)

の土曜の就業に関して次の6とおりのパターンを作ることができる：1) 夫も妻も就業日、2) 夫は就業日だが妻は非就業日、3) 夫は非就業日だが妻は就業日、4) 夫も妻も非就業日、5) 妻が専業主婦で夫が就業日、6) 妻が専業主婦で夫が非就業日。

妻が専業主婦で夫が非就業日の場合に一致度が高いつも高く62.2%である。次いで夫婦とも非就業日、夫婦とも就業日のパターンが続いている。当日の就業に関して夫婦が一致している場合（専業主婦を非就業日と同じと考えて）に一致度が高い。逆に、当日の就業に関して夫婦が一致していない場合には一致度が低い。しかしながら、その中でも妻が専業主婦で夫が就業日のパターンの一致度が高いつも低く39.4%である。これに対して夫が非就業日で妻が就業日のパターンでは、一致度は53.1%とそれほど低くない。

4. 夫婦の睡眠・非睡眠のパターン

本論文のはじめに、夫の睡眠時間が妻より長いという日本の夫婦の睡眠時間の特徴と、その理由としての妻の早起きの事例研究を紹介した。ここでは、タイミング分析を用いてこの夫婦の睡眠時間の相違について明らかにしたい。

図4は、夫婦の一方が睡眠していて他方が起きている時間帯について、夫が寝ている時間帯と妻が寝ている時間帯の比率を妻の就業形態別にみたものである（金曜）。横棒グラフの左側が「夫が寝ていて妻が起きている時間帯」、右側が「妻が寝ていて夫が起きている時間帯」を示している。妻の就業形態にかかわらず、夫が寝ていて妻が起きている時間帯の方が比率が高い。対象者全体について計算するとこの比率は66.4

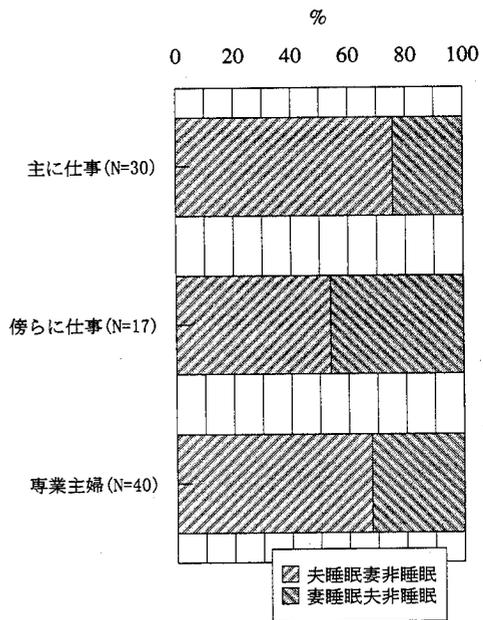


図4 妻の就業形態別にみた夫婦の睡眠・非睡眠のパターン (金曜)

%になる。この比率が高いつも高いのは「主に仕事」いわゆるフルタイムの妻の場合で75.6%、次いで専業主婦の場合67.8%、「傍らに仕事」いわゆるパートタイムの場合の52.8%と続く。

では、夫が寝ていて妻が起きている時間帯に妻はどのような行動をしているのであろうか。この時間帯のうち、専業主婦では48.5%、パートタイムの妻では38.8%、フルタイムの妻では35.3%は家事労働の時間帯である。夫より早起きして朝食の準備をするという事例を統計的数値で示しているといえる。もちろん、図4に示されるとおり、妻が寝ていて夫が起きている時間帯がないわけではない。しかしながら、事例的にいえば、これは夫が妻より早起きをするというよりも、ほとんどが妻より遅く寝ているケースである。妻が寝ていて夫が起きている時間帯で夫が家事労働をしている時間帯は、本論文で使用した調査データでは皆無であった。

図5は図4と同様の比率を、土曜について就業日パターン別にみたものである。土曜の場合も夫が寝ていて妻が起きている時間帯の方が比率が高いことは金曜と同じであり、対象者全体の値は67.0%である。この比率が高いつも高いのは妻が専業主婦で夫が非就業日のパターンであり、81.8%である。次いで夫も妻も非就業日、夫も妻も就業日というパターンが続いている。逆に夫が寝ていて妻が起きている時間帯の比率が相対的に低いのは、夫就業日妻非就業日、妻が専業主婦で夫が

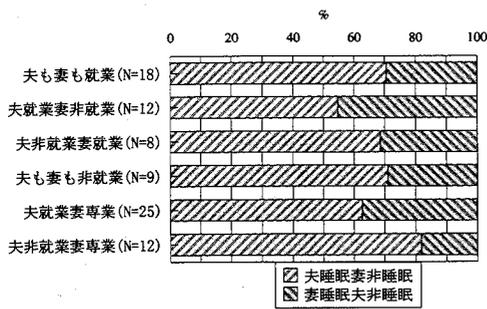


図5 就業日パターン別にみた夫婦の睡眠・非睡眠のパターン（土曜）

就業日のパターンであり、比率はそれぞれ54.8%、62.7%である。この両パターンでは、夫が就業日のため睡眠時間そのものが短く、そのために夫が寝ていて妻が起きている時間帯が相対的に少ないのかもしれない。

夫が寝ていて妻が起きている時間帯に妻が家事労働をしている比率は、夫も妻も就業日のパターンでもっとも高く52.8%である。妻が有職で非就業日であるパターンではこの家事労働をしている比率は低く、夫就業日妻非就業日の場合35.3%、夫も妻も非就業日の場合37.0%である。土曜の場合、妻が寝ていて夫が起きている時間帯に夫が家事労働をしているケースは皆無ではない。しかしながら、それは、妻が専業主婦で夫が非就業日のパターンで18.8%、妻が就業日で夫が非就業日のパターンの12.5%にすぎない。他の就業日パターンでは土曜も妻が寝ていて夫が起きている時間帯に夫はまったく家事労働はしていない。

5. 職業労働、家事労働、自由行動の相互関係

ここでは、睡眠についての分析を発展させ、他の生活行動について、タイミングにおける夫婦の関連を分析したい。具体的には、職業労働、家事労働、自由行動に焦点をあて夫婦の相互関係をみていくことにする。

(1) 夫が仕事をしているとき妻は何をしているか

はじめに、夫が職業労働である仕事をしている時間帯に妻は何をしているかについて検討する。図6は金曜において、夫が仕事をしている時間帯の妻の行動を妻の就業形態別にみたものである。図には、仕事、家事労働、自由行動の比率のみを示した。

図6の結果は、ある程度は妻の就業形態から推測されることであるかもしれない。「主に仕事」いわゆるフルタイムの妻では夫が仕事に従事している時間帯の69.0%は職業労働に従事している。この比率は「傍らに仕事」いわゆるパートタイムの妻では40.3%に減少

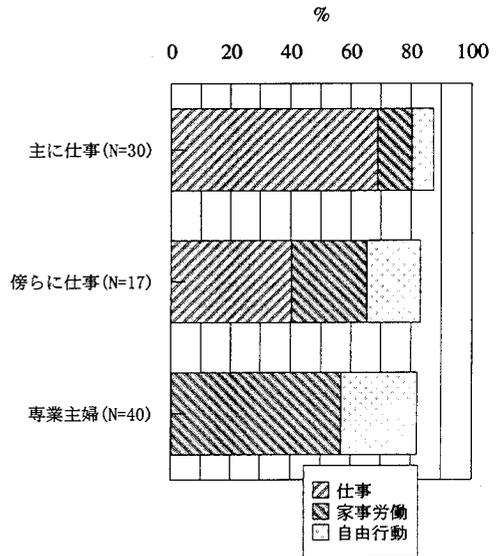


図6 夫が仕事をしているとき妻は何をしているか（妻の就業形態別・金曜）

する。これに対して専業主婦の妻では夫が仕事に従事している時間帯の56.5%は家事労働に従事している。上で説明したとおり、本論文での家事労働には子どもの世話や買い物も含まれている。この家事労働の比率はパートタイムの妻では25.1%に減少し、フルタイムの妻では11.4%にまで減少する。

専業主婦の場合、夫が仕事に従事している時間帯の半分以上は家事労働に従事しているが、自由行動も25.3%を占めている。この比率もパートタイムの妻17.7%、フルタイムの妻7.1%と減少する。

(2) 妻が家事労働をしているとき夫は何をしているか

それでは、妻が家事労働に従事している時間帯に夫は何をしているのであろうか。図7は金曜について妻の就業形態別にみたものである。図は比率を示しているが、家事労働の時間量そのものは、「主に仕事」いわゆるフルタイムの妻がもっとも短く、専業主婦がもっとも長いことには注意する必要がある。

妻が家事労働をしている時間帯に夫が仕事をしている比率は専業主婦の場合がもっとも高く67.4%である。パートタイムの妻の場合は48.2%、フルタイムの妻の場合は32.5%である。専業主婦の場合がもっとも高くフルタイムの妻の場合にもっとも低いという結果は予想を裏付けるものであるが、フルタイムの場合でも、妻が家事労働に従事している時間帯の32.5%は夫が仕事をしていることは注目すべき結果である。妻より夫の方が遅くまで仕事していることを反映した結果であるといえる。

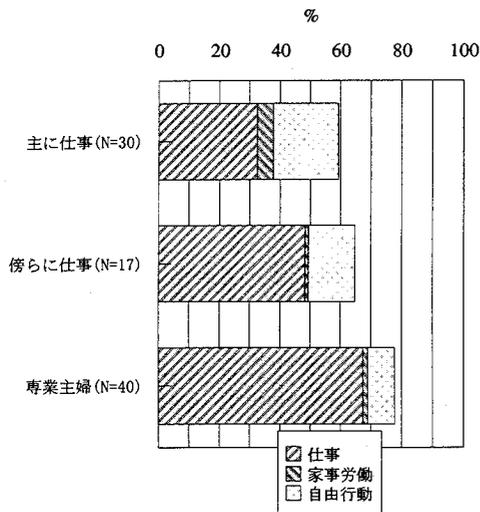


図7 妻が家事労働をしているとき夫は何をしているか (妻の就業形態別・金曜)

妻が家事労働をしているとき夫も家事労働に従事している比率はフルタイムの妻の場合にもっとも高い。しかしながら、その比率は5.2%である。パートタイムの妻、専業主婦の場合はこの比率がそれぞれ1.2%、1.6%である。上で述べたとおり家事労働時間の絶対量はフルタイムの妻がもっとも短いので、フルタイムの妻の夫の場合も時間量は長くない。この結果は、日本では共働きの場合でも夫があまり家事労働に従事しないということを別の視点から示しているといえる。

妻が家事労働をしているときに夫が自由行動をしている比率はフルタイムの妻の場合でもっとも高く21.6%である。この比率はパートタイムの妻の場合15.4%、専業主婦の場合8.7%と減少する。ここでも、時間量そのものの違いは比率の違いほど大きくないことには注意すべきである。

(3) 夫が家事労働をしているとき妻は何をしているか

視点を変えて、夫が家事労働に従事している時間帯の妻の行動に目を向けてみたい。夫の家事労働時間は金曜に比べれば土曜の方が長いので、ここでは土曜について分析する。もちろん、土曜の方が長いとはいえ、有職の夫の平均時間は (金曜が就業日でないものも含めて)、金曜14分に対して土曜45分である。

図8は夫が家事労働をしている時間帯に妻も家事労働をしている時間帯の比率を土曜の就業日パターン別に示したものである。土曜の夫の家事労働時間は夫が非就業日である方が長くなるので、その結果、夫が非就業日である場合には、夫が家事労働をしているとき妻が家事労働をしている比率は低くなる。夫が非就業日

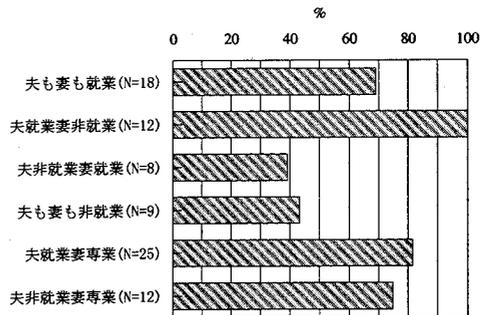


図8 夫が家事労働をしているとき妻が家事労働をしている比率 (就業日パターン別・土曜)

で妻が就業日の場合は夫が家事労働をしている時間帯の39.2%で妻も家事労働をしており、夫が非就業日で妻が非就業日の場合は43.3%である。ただし、これは妻が有職の場合であり、夫が非就業日であっても妻が専業主婦の場合は、夫が家事労働をしている時間帯の74.7%で妻も家事労働をしている。

夫が就業日である場合、家事労働時間量は短くなる。したがって、夫が家事労働をしている時間帯の数も少ないが、その夫が家事労働をしている時間帯の大部分は妻も家事労働をしている。夫も妻も就業日の場合は、夫が家事労働をしている時間帯の69.0%で妻も家事労働をしており、夫が就業日で妻が専業主婦の場合は81.6%である。夫が就業日で妻が非就業日の場合には、本論文で使用した調査データでは100.0%が家事労働であった。

(4) 夫婦共通の自由時間

最後に自由時間について検討しておきたい。図9は土曜について、夫婦それぞれが自由行動を行っている時間帯に占める夫婦ともに自由行動をしている時間帯の比率を就業日パターン別に比較したものである。

土曜の自由時間の時間量そのものは夫の方が長いので、夫婦共通の時間帯の比率は夫の方が小さくなる。就業日別パターンでみた場合も、夫が就業日で妻が非就業日のパターンのみ夫婦共通の時間帯の比率が妻の方が小さいが、それ以外の就業日パターンでは夫婦共通の時間帯の比率は夫の方が小さい。その中で、夫が非就業日の場合には、夫婦共通の時間帯の比率が高くなる。この傾向は夫婦ともにみられるが、とくに妻の場合に顕著である。分析には大分類を用いているので、夫婦共通の自由時間が内容まで同じかどうかはわからないが、夫が非就業日には夫婦共通の自由行動が増えることを示している。

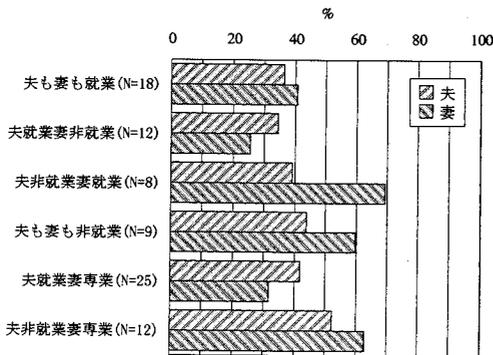


図9 自由時間にしめる夫婦共通の時間の比率 (就業日パターン別・土曜)

6. おわりに

夫婦の生活時間配分の相違を、タイミングからみた夫婦の生活行動の相互作用の視点から分析した。主要な結果をもう一度要約すると次のとおりである。

夫婦の行動の一致度は妻の就業形態や夫婦の就業日パターンによって異なっている。夫より妻の睡眠時間が短い要因として、夫が寝ている間に妻が家事労働をしていることがあげられる。夫が家事労働をしているときには、妻も家事労働をしている傾向が強い。土曜においては、夫婦それぞれの自由時間帯に占める夫婦共通の自由時間帯の比率は妻の方が高い。土曜に夫が非就業日の場合は夫婦とも夫婦共通の自由時間帯の比率が高くなる。

本論文の分析により、生活時間の時間量からとらえられる夫婦のジェンダーによる相違をタイミングという新しい視点から明らかにすることができた。夫が寝

ているときに早起きして炊事をする妻は多いが、妻が寝ているときに家事労働をする夫はほとんどいない。妻が一人で家事労働をするのは普通のことであるが、夫が家事労働をしているときには、夫だけが家事労働をしているような状況にならないよう、妻も家事労働をするようにつとめているのではないか。

タイミング分析は時刻を変数とするため、日記法による生活時間調査を必要とし、分析のためには個票データが必要である。公表された平均時間データからはタイミング分析はできない。本論文のはじめに述べたようにタイミング分析が少ないのはこうした理由による。そのため、実証分析の少なさだけでなく、タイミングに関する理論的枠組みの構築も進んでいない。

幸いにして、筆者はいくつかの生活時間調査の個票を分析できる立場にあるので、本論文の分析を出発点として実証的な分析を進めるとともに、理論的枠組みの構築にも取り組んでいくことを今後の課題としたい。

<参考文献>

- 平田道憲 1994 労働時間の短縮による家庭生活の変化 広島大学教育学部紀要 第二部 第42号 151-157ページ
- 平田道憲 1998 夫婦の睡眠時間 第45回日本家政学会中国・四国支部研究発表要旨集 8ページ
- 経済企画庁国民生活局国民生活調査課 1975 生活時間の構造分析 大蔵省印刷局
- NHK放送文化研究所世論調査部 1995 生活時間の国際比較 大空社
- NHK放送文化研究所 1996 日本人の生活時間・1995 日本放送出版協会